

岩手県水産審議会資料
令和 2 年 2 月 10 日
岩手県農林水産部

主要魚種の漁獲状況について

1 岩手県海面漁業・養殖業の生産量及び生産額

- (1) 本県海面漁業・養殖業合計の生産量は、S61年の38万5千トンにピークに減少傾向（図1）、生産額もS57年の822億1,500万円にピークに減少傾向となっている（図2）。
- (2) 海面漁業についてみると、漁獲量はS61年の30万2,000トンにピークに減少傾向、近年は10万トンを下回る。漁獲金額は、S57年の698億7,300万円にピークに減少傾向、近年は300億円前後で推移（図3）。漁獲量の上位5種はサケ・マス類、サバ類、サンマ、タラ類、イカ類（図4）。
- (3) 養殖業についてみると、収穫量は6万～8万トンで比較的安定して推移していたが、震災後は4万トンを下回る状況。金額は、S47年以降徐々に増加し、H6年の172億2,100万円にピークに減少傾向。震災後は、単価の上昇により、100億円まで回復（図5）。収穫量の約5割はワカメ（図6）。

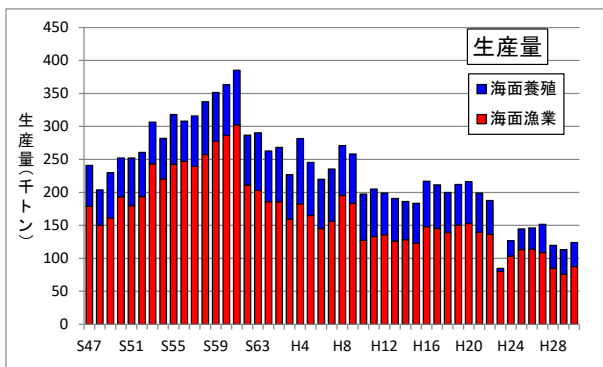


図1 岩手県海面漁業・養殖業の生産量

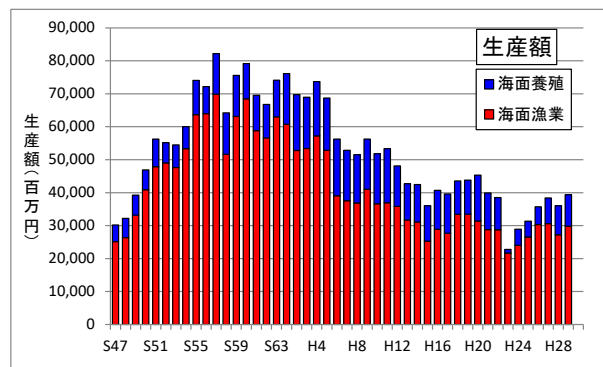


図2 岩手県海面漁業・養殖業の生産額

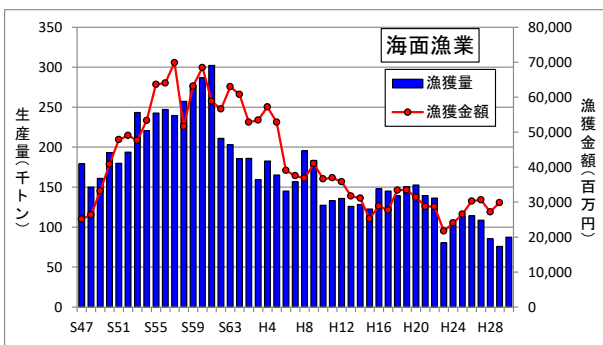


図3 海面漁業の漁獲量と金額

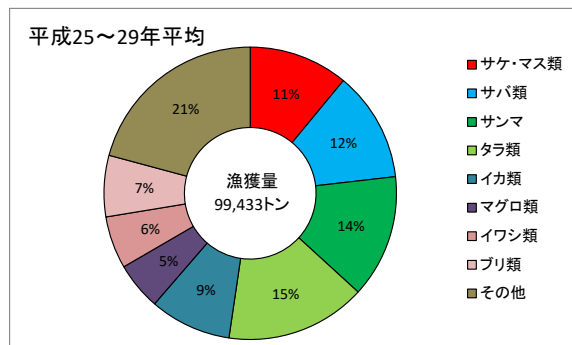


図4 海面漁業における種類別割合

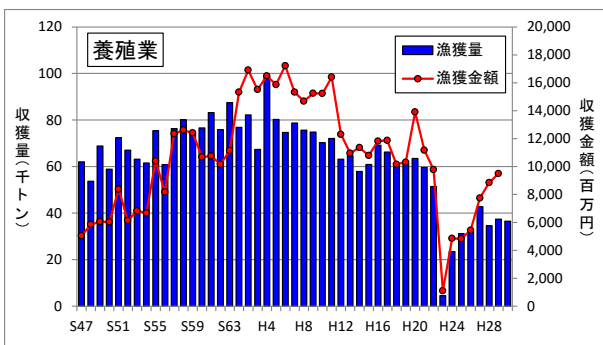


図5 養殖業の収穫量と金額

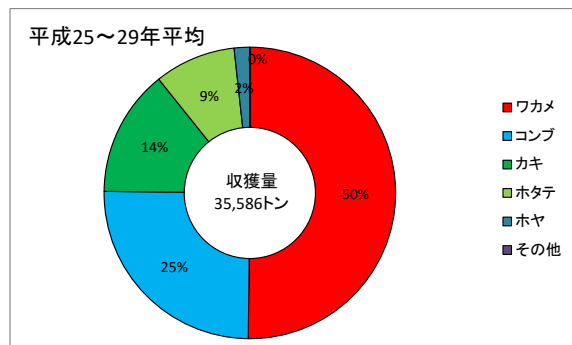


図6 養殖業における種類別割合

2 海面漁業における主要魚種の漁獲量の減少要因

(1) 本県海面漁業の漁獲量上位5種類（サケ、サバ類、サンマ、スルメイカ、タラ類）のうち、サバ類を除く4種類の漁獲量は近年減少傾向（図7）。

(2) 4種類の魚種が減少した要因（国の研究機関等の分析）

ア サケ：①東日本大震災津波による放流尾数の減少や採卵時期の後期偏重（12月）、②放流時期となる春の海水温の急上昇など

イ サンマ：①資源量の減少、②漁場の沖合化、③公海における国際的な漁獲競争など

ウ スルメイカ：資源量の減少など

エ タラ類（マダラ）：資源量の減少と魚体の小型化など

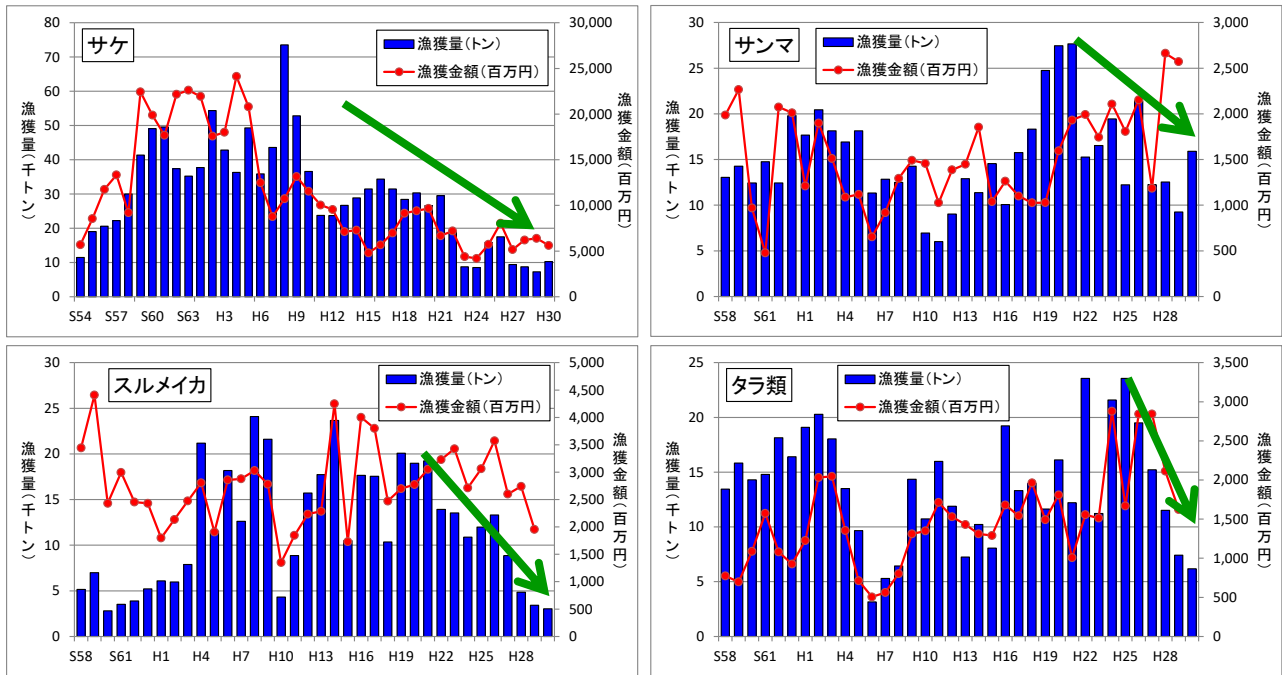


図7 本県海面漁業における主要魚種の漁獲量と漁獲金額

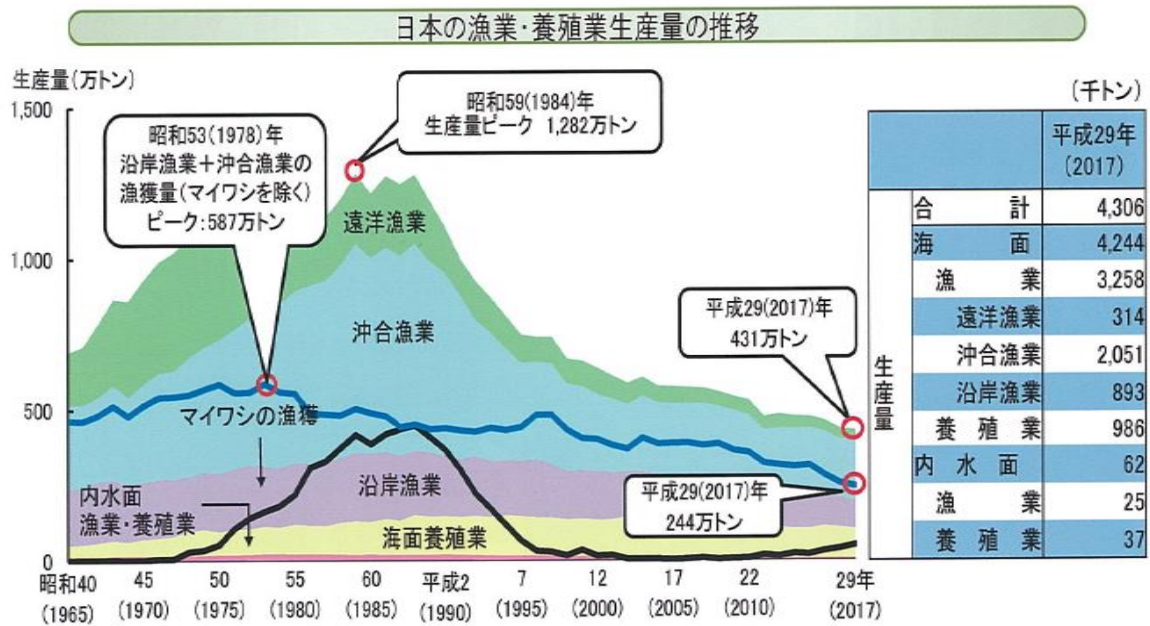


図8 日本における漁業・養殖業生産量の推移

水産庁「図でみる日本の水産」より

3 岩手県で増加傾向にある水産資源

- (1) 近年、本県では、サケ、サンマ、スルメイカの漁獲量が減少する一方で、日本沿岸の海水温の上昇により、ブリやサワラなどの暖水系回遊魚の漁獲量が増加（図9）。
- (2) マイワシの資源量は、北太平洋における数十年周期の大規模な大気・海洋循環と相関があることが分かっており、近年は、ベーリング海の海水温が低下し、マイワシにとって適した海洋環境になっており、資源が増加傾向（図10）。

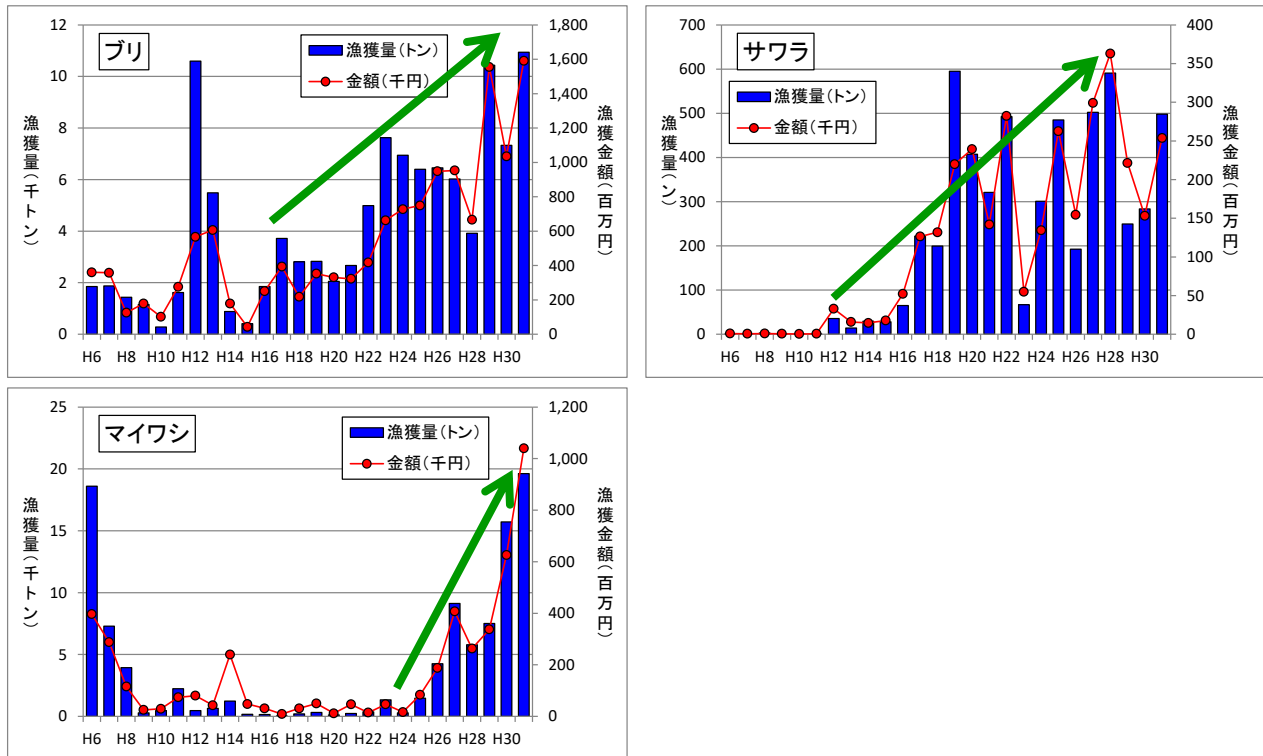


図9 ブリ、サワラ及びマイワシの漁獲量及び漁獲金額

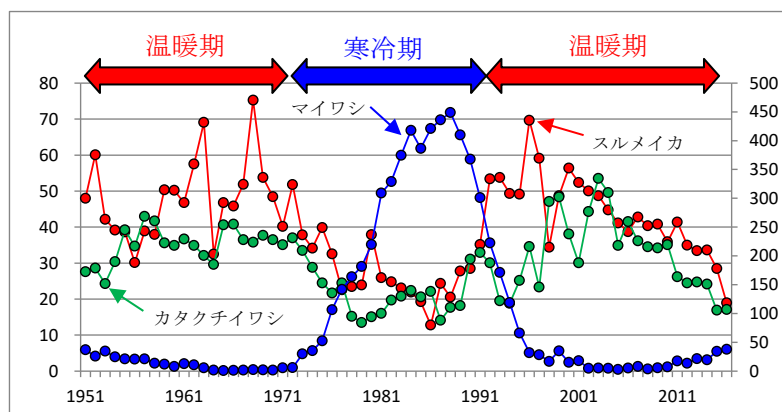


図10 北太平洋の海洋環境と漁獲量の推移

4 水産業の再生に向けた取組状況

(1) 漁獲量の確保対策

ア 沿岸漁船漁業による「マイワシ試験操業」の実施

- ・ 操業期間：11月30日～12月27日
- ・ 操業隻数：12隻（延べ175隻）
- ・ 漁獲量及び金額：3,520トン、2億2,364万円（平均単価63.5円/キロ）

イ アワビ・ウニの餌料対策の実施

- ・ 吉浜漁協、越喜来漁協、綾里漁協、大船渡市漁協等：ウニ等の移殖の実施（写真1）
- ・ 小子内浜漁協等：水産技術センターが開発したワカメ大型人工種苗による海中林（餌海藻）造成（写真2）



写真1 ダイバーによるウニ移殖



写真2 ウニ漁場におけるワカメ大型人工種苗による海中林造成

ウ 養殖漁場の生産性向上

- ・ 個人経営体の養殖規模拡大（施設の増設、省力化機器の導入）
- ・ 組織的な生産体制の構築（漁協自営定置乗組員による養殖生産（写真3）、漁協指導による協業体の育成（写真4）、加工業者との連携による生産協定の締結など）

表1 平成22年度及び平成30年度における養殖施設台数

	H22年度	H30年度	H30/H22
海藻類	17,881台	10,342台	57.8%
貝類	8,000台	4,629台	57.9%

※ 施設台数は、標準施設台数換算値



写真3 新おおつち漁協におけるワカメ自営養殖



写真4 広田湾漁協におけるワカメ協業体

エ サケ・マス類の海面養殖生産の促進

- ・ 久慈市漁協 (R1年4月～) : ギンザケ (写真5)
- ・ 宮古市及び宮古漁協 (R1年11月～) : トラウトサーモン (ニジマス) (写真6)
- ・ 新おおつち漁協 (R1年12～) : ギンザケ、トラウトサーモン (ニジマス)



写真5 久慈市漁協におけるギンザケ海面養殖



写真6 宮古市及び宮古漁協におけるトラウトサーモン海面養殖

(2) 加工・流通対策

ア まき網船の水揚げ誘致活動の実施

表2 県内主要魚市場におけるまき網船の水揚実績

(単位：トン)

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
マイワシ	0	15	0	0	347	231	471	392	2,983	4,694
サバ類	1,168	481	135	163	186	857	1,142	3,283	3,157	3,083
全魚種合計	1,475	1,326	141	516	817	1,380	2,053	3,988	6,727	7,858

イ 水産物の高度衛生品質管理地域づくりの実施

- ・ 衛生品質管理アドバイザーの派遣による魚市場、加工・流通業者の衛生品質管理高度化
- ・ 岩手県高度衛生品質管理地域の認定：洋野町、田野畑村、野田村、大船渡市 (令和元年12月末現在)

ウ 地域水産物の付加価値向上対策の実施

- ・ 加工原料の多様化に関する勉強会 (加工原料セミナー) の開催 (写真7)
- ・ 復興シーフードショーIWATE の開催 (写真8)



写真7 加工原料セミナーの状況



写真8 復興シーフードショーIWATE の状況